

読書活動推進大会報告

20100314 美哉幼稚園



これは、2010年3月14日に行われた境港市の読書活動推進大会で、市の幼稚園・保育所の活動の一例として報告したものです。スライドを使って話したものをまとめました。

まずは、この写真をごらんください。

楽しそうですね！？ 子どもたちのこの笑顔。毎日各クラスで担任が読み聞かせをしています。

実はこの笑顔、私が年少組の担任に絵本を楽しんでいる笑顔が撮りたいと言ってお願いして撮った写真です。「なーんだ、やらせか」と思われたでしょうか。でも、そうではありません。子どもたちの笑顔が撮りたいと言ったら、担任は「じゃあ、あの本を読もう」と言ってある本を読みました。ということは、彼女が子どもたちがどんな本が好きかをよく把握しているということです。毎日の読み聞かせをとおして、子どもたちの反応と絵本の力を日々感じているわけです。

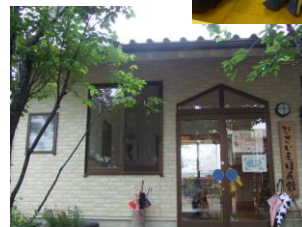


様々な場所で、読み聞かせをします。夏は藤棚の下の木陰で絵本を聞いています。外で絵本を聞くのは気持ちいいです。



左は2歳児クラスでの紙芝居です。

右は年長児、『エルマーの冒険』を聞いて想像をふくらましています。



これは「びさいえほん館」です。二千冊ほどの絵本があり





が消しゴムはんこ作りをしています。ここが地域の子どもさんやお母さんの居場所になってくれたらと思っています。

読み聞かせが終わると貸し出しをします。自分たちで2冊選びます。子ども同士で読み聞かせをしていますね。こうして、園生活の中で自然とえほんに

親しんでいきます。

右の写真は3歳児年少組の園児ですが、本が積まれているのが見えますか。これはこの子たちが1年間で聞いた絵本です。

護者さんの中には、エプロンシアターや大型絵本などで園児を楽しませてくれる人もいます。

こどもさんを抱きながらの読んで下さる方も少なくありません。お父さんの読み聞かせは好評です。自分が小さい頃読んでもらった本を大事にしているそれをもってきて読んで

下さる方もおられます。3世代にわたって1冊の絵本が読みつがれているわけです。

また読み聞かせのゲストとしては、学校がお休みの日の小学生や、中学校生さん、なかでもの特別支援学級の生徒さんが読んで下さるのは味わい深く子どもたちも喜びます。

「おはなしポケット」さんがおとづれて園児を楽しませてくれることもあります。

ついでに、このえほん館は、毎日開放しておりまして、地域のお母さんと赤ちゃんがお茶をしたりえほんの貸し出しをしたり、子育てサークルのミーティングに使ってもらったりしています。左は子育てサークルさん



これは年長 5 歳児の園児ですが、卒園までにこれだけのえほんのシャワーをあびて卒園していきます。

絵本は子どもたちの聞く力を育てます。将来必要になる、学力や理解力は、聞く力なしにはあり得ません。絵本は読み聞かせをするように作られていて、耳からの入力と目からの入力が溶け合っただけでえほんの世界が出現します。すばらしい絵とよく練られた詩のような言葉の幸福な結婚が絵本という総合芸術です。



聞くことは、身を聞くことであり、他者を受け容れることです。自分の外にあるものが自分の中に入ってきて、自分をかたちづくるクリエイティブな力となります。人が自立する



のための足場を作ります。ひとを受け容れるという広い裾野が形成されないと、自立と言ってもやせほそってすぐ倒れてしまうような孤立になりやすいのです。

また、絵本を聞きながら集中力や、共感力、想像力が養われます。イマジネーションとは単なる空想ではありません。ファンタジーや夢の世界を飛ぶための翼です、夢やファンタジー、地獄や極

楽など、多様な世界をはらんだ豊かな現実を経験するセンスを、絵本は養ってくれます。

たとえば、センダックの絵本を読むときなどは子どもたちが食い入るように聞き入ります。言葉が少なく、間が多い絵本でも、その豊かな絵によって行間が満たされ、沈黙は子どもたちのイマジネーションによって創造的に膨らみます。



毎日の読み聞かせは子どもたちの聞く力を育てていきます。卒園のころなどに年長組へ読み聞かせに行くと、聞く力が充満した空間に身を置くことがあります。絵本に聞き入っている子どもたちが醸し出すしずけさに、吸いこまれそうになるほどです。



幼少期にどれだけ豊かな言葉、美しい言葉にふれたかは重要です。いつかその言葉を思いだすかもしれません。経験がなければ思い出しようもありません。どうせ大人になれば汚い言葉を使うに決まっています。だからこそ、幼児期の言葉の経験が、社会の乱れや人間の乱れを食い止める底力になると思うのです。



ある年の年少組の園児が発表会で「めのまどあけろ」の群読をしました。大変おぼえがいいと思ったら、境港市のブックスタートでこの本をプレゼントされていた子どもたちでした。

美哉幼稚園年長組 23 名が詩の群読をいたします。